

共生

奈良県生協連

2017年 4月

NO.104



奈良県生協連2016年度役職員研修会
福島の今、福島のこれからに学ぶ
福島大学 丹波史紀先生



ユネスコ無形文化遺産に登録された
協同組合の思想と実践
奈良女子大学 青木美紗先生

もくじ

2017年取り組んでいくこと.....	1
役職員研修会公開企画	2
おじゃましました～奈良女子大の巻～	3
食のページ	4
環境のページ	5
地方消費者フォーラム2017 inひょうご.....	6

田崎飛鳥絵画展.....	7
3.11を忘れない	8
近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会 との意見交換会	9
公告「第28期通常総会」	10
県連日誌・お知らせ	11

2017年度 奈良県生協連が取り組んでいくこと

協同の力で社会の諸問題の解決策を見出す「協同組合の思想と実践」が昨年11月にユネスコ無形文化遺産に登録されたのは記憶に新しいところです。奈良県においても、わたしたちの安心で安全な消費生活と住み慣れた場所でのすこやかなくらし、誰もが大切にされ認め合える社会をつくることが求められています。こうした生活者の共通の願いの実現に向け、新年度も奈良県の生協は連帯して協同組合の理念の息づく取り組みをすすめてまいります。これからの主な取り組みをご紹介します。

= 2017年度四つの重点課題 =

- ①協同組合の理念を広げ協同の心が息づく取り組みをすすめます
- ②諸団体と連携・協同し、安心して暮らせる地域共生社会づくりに参加します
- ③平和とよりよいくらしの実現のための社会的諸課題を学び考える場をつくります
- ④会員生協の交流と連帯をすすめます

協同の理念を広げ協同の心が息づく取り組み

■協同組合間協同

奈良県協同組合連絡協議会による協同組合デーのつどいや、近畿労働金庫との懇談会など、協同組合間の交流と連携関係をつよめます。

■行政とのコミュニケーション

県行政施策への要望書を提出し、生協組合員の願いや意見を伝えます。年2回の生協・行政協議会や食の安全懇談会等での意見交換を大切にします。

■東日本大震災復興支援と防災減災

福島の子ども保養プロジェクトや奈良の地でできる支援企画に取り組みます。災害発生時の対応について検討をすすめます。

■協同組合理念の学びの場づくり

第28回生協大会、会員生協役職員研修、生協組合員理事交流会とともに学ぶ機会を提供します。

諸団体連携・地域社会づくりへの参加

■消費者市民社会の形成への寄与

特定非営利活動法人なら消費者ねっととの連携で、消費者教育と啓発推進、消費者の権利保護活動をすすめます。

■地域で誰もが安心してくらすための協同

奈良県社会福祉協議会や住民団体と連携し、子どもたちから高齢者、障がい者まで、誰もが安心して過ごせるまちづくりをめざし住民による居場所づくりの活動を応援します。また、健康長寿を目指し、医療福祉生協を中心に健診推進、健康づくり運動をすすめます。

■自然・くらし・エネルギーの地域共生

森・水・エネルギー・人とくらしの地域内循環や地域活性化を学ぶ視察見学などを実施します。吉野共生プロジェクトに参加し、奈良県南部東部の活性化を応援します。県内の再生可能エネルギーをすすめる市民活動を応援します。

社会的課題を学び考える場づくり

■食の安全・安心

食の安全懇談会を開催し、消費者をとりまく食品安全の現状を学びます。近畿地区生協と近畿農政局との懇談会に参加し意見交換します。その他、食の安全に関するリスクコミュニケーションや学習会に積極的に参加します。

■平和と核兵器廃絶

ピースアクション in なら2017を開催し核兵器廃絶に向けた学習をすすめます。被爆者が訴える国際署名をすすめます。奈良県在住の被爆者のつながりをサポートするとともに、記録の伝承に協力します。大学生協と連携し、若い世代自身の平和の学習活動を支援します。

■健康づくり

「いつでも健康チャレンジ」に取り組みます。奈良県医療福祉生協による健康づくりや大学生協の食生活相談会などを応援します。

■環境・地球温暖化防止

パリ協定のCO2削減目標に向けた取り組みが地域やくらしの中ですむよう、情報発信と学習の場づくりを行います。

会員生協の交流と連帯

■奈良県医療福祉生協の事業安定化と奈良市事業所開設準備を応援します。

■会員生協役職員研修会を開催します。

■大学生協学生委員と平和の活動などで連携交流します。

■生協組合員理事交流会を引き続き実行委員会形式で実施します。

奈良県生協連2016年度役職員研修会(公開学習会)を開催しました ＝福島は今、福島のこれからに学ぶ＝

3月29日、奈良商工会議所にて、奈良県生協連会員生協役職員研修会を開催し49人が参加しました。福島大学の丹波史紀先生をお招きし、東日本大震災から6年を経過後も未だ途上にある福島の原子力災害からの復興の現状を学び災害時や復興過程、防災や地域への生協のかかわり方についてご講演をいただきました。また、ユネスコの無形文化遺産に「協同組合の思想と実践」が登録されたことを受け、奈良女子大学の青木美紗先生のお話を聴き、改めて協同組合の歴史や価値について学びました。

①講演 「震災から6年、 福島の抱える課題と生協への期待」

講師：福島大学行政政策学類準教授 丹波 史紀 先生

丹波先生は大熊町・双葉町・浪江町などの復興計画策定に携わったご経験をもとに原子力災害によって引き起こされた被災地の状況と変化、県内外に避難された人々の状況などを詳細に報告されました。7年目を迎えた現在、復旧と復興には格差が生じていると同時に「風化」と「風評」の二つの風に悩まされているのが現実ということです。避難広域化と長期化で生活再建の時間軸が描きにくいのが原子力災害の特徴で、福島県で震災関連死が多いことも再建が見通せないことが要因と考えられます。

家族がバラバラになり、子どもと母親が避難先にとどまる傾向のある南相馬市ではファーストフードのパートや看護師など主に女性の働き手が不足し、求人のミスマッチがあって町の活気が戻らないということです。

また「震災の事実を忘れず、わが事として寄り添ってほしい」、「災害からの復興に何より大切なのは個人や家族そして地域そのものが尊厳を取り戻すこと」として「いのち・くらし・誇り」が損なわれないよう協同の力で守り育てる生協の役割に期待を寄せられました。そして当事者である住民ががんばって福島にこれからの価値を築くこと、即ち「ふくしまを世の光に」していきたいと述べられました。



福島大学 丹波史紀先生

②報告 「ユネスコ無形文化遺産に登録された 協同組合の思想と実践」

奈良女子大学研究院助教 青木 美紗 先生



奈良女子大学 青木美紗先生

参加者アンケートより

- 被災3県で県外避難者が一番多い福島県がかかえている問題について改めて認識しました。
- お二人の先生から協同組合への期待として多くの提起を頂きました。協同連帯の思想を今日のしっかり強固なものにして、次の世代につないでいく使命があると自覚しました。

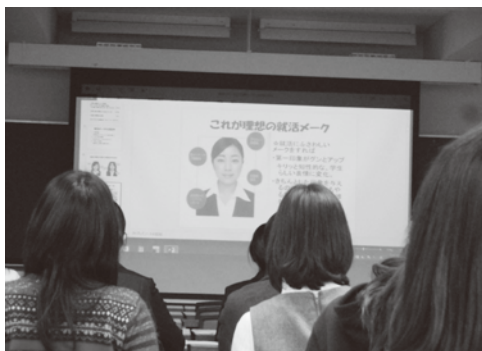


登録の対象となったのは「共通の利益と価値を通じたコミュニティづくり」や「雇用の創出、高齢者支援、都市の活性化など様々な問題へ創意工夫ある解決策を生み出す」協同組合の思想と実践。日本には生協の他に農業、漁業、森林、信用金庫などの協同組合があり6500万人組合員がいます。世界の協同組合は、労働者や農民などの社会的弱者がお金を出し合って、民主的にみんなが望む社会をつくる運動として発展してきました。青木先生は、途上国での地域住民の生活改善のための学びあいや、くらしに根付いたたすけあいは協同組合の原点として、食の安全や女性の生活向上などが実現している姿を紹介されました。また、一主婦がNPT再検討会議などの国際会議へ意見を届けに行くといった行動も「平和とよりよい生活」を根本におく協同組合ならではの、と述べられました。

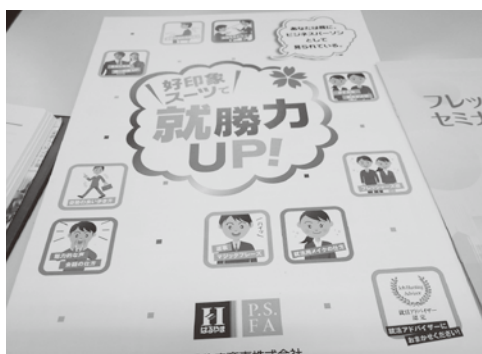
また、「協同組合の可能性は無限大で、食料・環境・つながりなど現代のあらゆる社会問題の解決や最先端の取り組みができますが、組合員や役職員が主体性を発揮して、意味や役割をきっちり説明する力をつけることが重要です」と、生協への期待とこれからのあり方についても語られました。

おじゃましました ～奈良女子大生協の巻～ メイクで印象アツツ! 就活セミナー

1月18日奈良女子大生協主催で、2018年度卒業生対象の就活セミナーが、奈良女子大学で開催されるとお聞きし、取材に行ってきました。夕方5時から5時半まで「スーツの着こなしセミナー」、5時半から6時半まで「メイクセミナー」が実施され、3回生60名ほどが熱心に受講されました。



メイクセミナーでは、
メイクの仕方を丁寧に説明



「内定獲得の大きなポイントは面接での第一印象」
と訴えるスーツのパンフレット



終わった後もメイクについて熱心に質問



いま、就活は?

1997年に就職協定が廃止されてから、大企業を中心に採用の早期化が顕著になりました。一部の学生に内定が集中してしまい、採用活動を早く始めても早く終わるとは限りません。また、内定をもらってから入社までの期間が長くなります。また、最終的に辞退に至った場合には、企業側も再募集をしなければなりません。一方で、就職活動の早期化・長期化は、学業に専念すべき学生自身の負担になるばかりでなく、学生の成長が期待される卒業・修了前年度の教育にも支障をきたします。就職・採用活動開始時期を遅くすることで、学生が落ち着いて学業等に専念できると期待されましたが、企業側の都合で、就職活動のスケジュールはたびたび変更されてきました。

最近では、採用情報の公開は、2014年は3回生の12月から、2015年以降は3月から。選考(=採用面接など)は、2014年は4月から、2015年は8月から、2016年以降は6月からと変更になりました。2018年度卒業生も、選考の開始が、6月、採用情報の公開は3月から解禁です。選考前の準備(志望企業の選択、筆記試験対策、エントリーシートの作成などの活動)が多く、短期間で学生たちは取り組むことになります。

京阪神北陸大学生協JOBサポート事務局が、業界研究・就活準備フォーラムを2月中旬から、合同会社説明会を3月から、大阪・京都で開催し、学生たちの支援をしています。奈良女子大生協でも奈良県内で合同説明会を開催され、学生たちを支援しています。

まだあまりお化粧をしたことのない学生たちから、お化粧に慣れている学生さんまでいろいろです。「顔を髪の毛で隠さずに全て出すこと、髪の毛はピンで留めずに整髪料でとめること、髪の毛の束ねる位置は目尻を結んだ延長線上に…」など具体的なアドバイスがありました。学生は、これから不安な就活に挑戦していく事になります。学生さんたちに聞くと「こんなセミナーをしてくれると助かる」との声でした。生協は頼りがいのあるよき支援者のようです。



平成28年度

第2回奈良県食品安全・安心懇話会

3月10日、ホテルリガレ春日野にて、平成28年度2回目の奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました。

奈良県生協連の会員生協であるならコープの森宏之理事長が、懇話会委員(流通業代表)として、また、ならコープの吉田由香理事が公募委員として参加されています。

平成29年度奈良県食品衛生監視指導計画(案)に対する県民からの意見(2名9件)や、奈良県HACCP 自主衛生管理認証制度(ならハサップ)、GAP(農業生産管理行程)の取組みなどが報告されました。懇話会委員から、食品表示に係る監視指導の強化や県民への情報提供、『ならハサップ』の普及推進、ジャガイモによる食中毒事故防止のための学校現場への注意喚起、食品ロス低減に向けた取組みへの県の考え方、加工食品原料原産地表示の義務化に対する現状報告を求める意見が出され、関係課より情報提供および説明があり、意見交換が行われました。



平成29年度 奈良県食品衛生監視指導計画案 に対する意見書提出

平成29年度奈良県食品衛生監視指導計画案に対するパブリックコメントが1月16日から2月14日まで募集され、奈良県生協連は次の意見を提出しました。

- ・食中毒発生防止策に対する指導強化(学校給食など)
「クドア・セプテンブクタータ」(ヒラメの寄生虫)の説明追加、こども食堂に対する衛生管理の支援策
- ・ジビエによる食中毒事故防止のための対策の強化
- ・外国人観光客への食中毒情報の伝達の工夫
- ・食品表示の監視指導(事業者への適切な指導および消費者への情報提供)
- ・国によるHACCPの義務化と奈良県版HACCPとの関係および今後の計画
- ・前年度との比較の掲載、昨年度との変更点や重点課題の掲載要望



奈良県食品安全・安心懇話会の様子
(奈良県消費・生活安全課提供)

「遺伝子組み換え食品学習会」

3月8日、やまと会議室(奈良市登大路町)にて、遺伝子組み換え食品学習会を開催し、生協役職員15名が参加しました。

遺伝子組み換え技術等の先端技術の農業・食品への応用について、服部隆氏(近畿農政局生産部生産技術環境課農政調整官)から遺伝子組み換え農産物の利用状況、育種と遺伝子組み換え技術、遺伝子組み換え農産物等の研究開発状況、遺伝子組み換え農産物等の安全性確保の仕組み、ゲノム編集技術の紹介がありました。

事前に出された質問では、世界での遺伝子組み換え食品の取り扱い、動物や魚介類の飼料への適用の考え方や長期的な視点での安全性に対する懸念などが出され、回答をしていただきました。遺伝子組み換え食品に対する消費者の不安や懸念を受け止めていただけたことや、少人数の学習会であったこともあり、活発に意見交換ができました。



服部隆氏の講演の様子

「地域に住み続けるために必要なこと ～エネルギー永続地帯研究から～」

主催：NPO 法人サークルおてんとさん 共催：奈良県生活協同組合連合会

1月28日、奈良商工会議所にて、「地域に住み続けるために必要なこと～エネルギー永続地帯研究から～」講演会が開催され、行政、生協ほか県議会議員やNPOなど50名が参加しました。

基調講演の倉阪秀史教授（千葉大学大学院）は、再エネと食料自給率が100%以上の自治体を「永続地帯」とし毎年公表されています。インフラの老朽化、人口減少と高齢化、温暖化と自然荒廃、地方消滅や無縁社会が懸念されています。日本においては人的・人工・自然・社会関係それぞれの資本の持続可能性の確保が課題になり、地域に密着したエネルギーシステムの構築と、地方（自治体）主導の再エネを導入する意義を説かれました。全国自治体のデータ分析による「未来シミュレーション」を基に長期的な政策を立てる必要があるとのお話でした。

後半は、ならコープと生活クラブ生協の電力事業、三郷町の木質ペレット利用や天川村の薪ボイラーの導入の取り組み報告があり、奈良県地球温暖化防止活動推進センター長の遊津隆義氏の進行で、会場からの質疑に対する回答と意見交換がされました。倉阪教授からは、奈良は森林もあり雨も多く、再エネ導入のポテンシャルがあるので可能性は十分あるとのコメントを頂きました。



倉阪教授（右）と遊津氏（左）

講演会「新たな原発・東電救済策の問題点」

主催：関西消費者団体連絡懇談会・全大阪消費者団体連絡会

2月5日、大阪のドーンセンターにて、大島堅一教授（立命館大学国際関係学部）の「新たな原発・東電救済策の問題点」の講演会があり、近畿圏内の生協、NPOや原発問題に関心のある方など68名が参加しました。

高くなる原発コスト、増える原発事故費用、そして東電・原子力事業者救済とその問題点について解説されました。「現時点を見ても政策経費や事故コストを含めれば、kWh当たり火力9.9円、水力3.9円、原子力13.3円と、原発のコストは高く、政策経費、事故コストも含めるべきなのに今まで計上してこなかった。福島第一原発の廃炉費用や賠償費用、除染費用、中間貯蔵のための多額の費用をねん出するため、電力自由化後の負担システムにおいて、託送料金に上乗せし、新電力にも負担させ、全国民負担とする方策が、現在、検討されている。膨大な費用については根拠が希薄である。送電部門に特定事業者の特定電源の費用を付け替えては、電力自由化の趣旨に反する。事故炉廃炉費用、損害賠償費用、除染費用などを情報公開し、国会や国民のチェックが働くようにする必要がある。」と大島教授は述べられました。

自然エネルギー学校・なら2016

主催：地域未来エネルギー奈良 共催：奈良県生協連

3月3日～4日、自然エネルギー学校・なら2016の第4回講座として、岡山県西栗倉村の視察研修が開催され、行政職員や大学生、NPOなど10名が参加しました。環境モデル都市「岡山県西栗倉村」の地域活性化策の一つとして取り組む再生可能エネルギー活用（温泉の熱源としての薪ボイラー、小水力発電所290kW、影石小水力発電所5kW、にしあわくらむらおひさま市民共同発電所49.6kW）の見学とお話、翌日は、西栗倉村のおひさま発電所を村と協働事業を実施した「おかやまエネルギーの未来を考える会」と交流し、岡山市建部保育園のおひさま市民共同発電所を見学しました。



黄金泉（温浴施設）の薪ボイラーを見学



平成28年度地方消費者フォーラムin ひょうご 広げよう地域へ! つなげよう世代を超えて!

地方消費者フォーラムin ひょうごが2月20日兵庫県農業会館で開催されました。近畿2府4県の消費者問題に携わる個人・消費者団体、行政などの「交流の場」として「広げよう地域へ! つなげよう世代を超えて!」をテーマに244人が参加し開催されました。このフォーラムは平成22年度から全国8ブロックに分かれ消費者団体、行政との実行委員会と消費者庁が共催で実施されています。

18団体が参加した壁新聞交流会では各団体の活動紹介を終日展示し、多くの来場者と交流、連携を深めました。

午前は映画「チェンジメイカーズ～消費者の権利のための闘い～」をNPO法人消費者ネットジャパン理事長タン・ミッシュル氏の解説とともに上映しました。

午後からは全体会が行われ、消費者庁審議官吉井巧氏のご挨拶と消費者庁の取組み報告。その後の壁新聞出展者13団体によるリレー紹介では、コントなどを交えて消費者トラブル防止の様々な取り組み報告がありました。続いて兵庫県「消費者市民社会づくりへのくらしのヤングクリエイター～2016年度の取り組み報告～(大学生)」、神戸市「消費者教育についての“消費生活マスターの取り組み”」、滋賀県高島市「地域共生社会

を民間初で創造する生協と社協による住民の暮らしを支えるプロジェクト～高島市丸ごとキャラバン隊の指導に向けて～」の取り組み報告がありました。その後、会場内24グループに分かれ「今日学んで気づいたことは何ですか?」を共通テーマにワークショップが行われ活発な議論が交わされました。活動のヒントがたくさんもらえる一日となりました。



なら消費者ねっとの
報告をする垣田さん



「今日学んで気づいたことは何ですか?」
みんなでワークショップ!

映画「チェンジメーカーズ～消費者の権利のための闘い～」

米国消費者運動家である、ヘレン・E・ネルソン氏(故人)がプロデュースした映画で、米国では1995年に初公開されました。

映画タイトル“Changemakers”は、「社会変革を起こした人々」という意味で、まさに、消費者の権利を獲得するために闘った人々が、続々と登場します。多くの米国の著名な消費者運動家・専門家たち。彼らがインタビューを通して、米国の消費者運動・消費者政策の発展について語る貴重な映像とインタビューが満載です。米国の消費者運動・政策の歴史を知るだけでなく、“Changemakers”の生の声を通じて、彼らの熱い思いも伝わってきます。

ご存じ
ですか?



被害にあって泣き寝入りをしないために 新しい消費者団体訴訟制度ができました!

消費者トラブルで被った損害の賠償を求めることのできる「新しい集団的消費者被害回復訴訟制度」が昨年10月から施行されました。

これまでの制度は、嘘や脅しによる勧誘や消費者が一方的に不利になるような契約など、事業者の不当な行為をやめさせる「差し止め請求」ができる制度で、消費者に代わって国から認定を受けた「適格消費者団体」が行っています。今回新しくできたのは、受けた被害を回復させるもので認定を受けた「特定適格消費者団体」が担います。まず第一段階の訴訟で相手方事業者の賠償義務を確認しておき、第二段階で被害を受けた消費者が参加の手続きをします。債務不履行や不当利得、不法行為などに関する請求ができます。

奈良県生協連と近畿圏の生協の仲間も支援をしている適格消費者団体「消費者支援機構関西(KC's)」も、この制度を担う特定適格消費者団体の認証をめざし準備しています。



～東日本大震災から6年 記憶と祈りをこめて～ 陸前高田を描く「田崎飛鳥絵画展」が開催されました

2017年3月19日～20日 会場：ぶろぼの福祉ビル(奈良市大宮町)5階



希望の一本松

- ◆主催：「田崎飛鳥絵画展」を奈良で実現する会
- ◆共催：社会福祉法人ぶろぼの 平城京ロータリークラブ
(株)ハートフルコープよしの 奈良県生活協同組合連合会
- ◆後援：奈良県社会福祉協議会 奈良市社会福祉協議会

田崎飛鳥さんは岩手県陸前高田市で創作活動をしている知的障がいのある画家で、東日本大震災の時、それまでの作品約200点が津波にさらわれてしまいました。そのショックで描くことができなくなったときもありましたが、ご家族の言葉をきっかけに制作を再開、震災前や今の町の様子を描いた作品を通し、震災の「記憶」と「祈り」を伝え続けておられます。

この絵画展を主催したのは、ならコープで被災地を応援する活動が続けてきた神木佳奈子さん、中川博子さん、中野素子さんの3人。現地で田崎さんの作品に出会い感銘を受け、大震災の記憶を風化させず、誰もがたすけあえる社会であってほしいとの願いを込めて「絵画展を奈良で実現する会」をつくり企画されました。この想いを伝え協力を呼びかけたところ、多数の共催や後援、協力を得て開催されることになり、奈良県生協連も共催させていただきました。

展示されたのはアクリル画の50号から30号の作品20点。明るい色調と力強いタッチで、町の人たちや動物とともに震災後の変わりゆく陸前高田の町の風景

などが描かれています。いつも一緒にいて自分を守ってくれる存在として鳥や周りの人が絵の中に登場しています。そして今、町は土地のかさ上げと沿岸整備が進んでいますが、作品に描かれた林や花畑の中を突き抜けるまっすぐな道には、震災の記憶とこれからの希望がこめられているかのようです。

会場を訪れた人たちは並べられた一つ一つの作品の前に立ちどまり、希望や祈り、人の絆などのメッセージを感じ取っていました。遠くから来られた方も多く、2日間を通して200人を超える人たちが来場し田崎さんの作品に触れました。



会場風景

トークイベント

初日の19日午後には田崎さんご両親によるトークイベントが開かれました。田崎さんご家族から、家族の絆で障がいと向き合いながら過ごした幼い頃の日々や創作の様子、大震災のことや作品の解説などを詳しく語っていただきました。

司会の中野素子さんから絵画展が実現するまでの経緯の説明と、協力された平城京ロータリークラブ会長の三浦教次氏のお話や社会福祉法人ぶろぼのなど協力団体の紹介がありました。また田崎さんのアトリエに多くの人たちが集える「絵画サロン」をつくるクラウドファンディングへの協力も呼びかけられました。



田崎飛鳥さんご両親

● 田崎飛鳥さん プロフィール ●

幼少期から絵を描くことに親しんでおり、作品のモチーフは、多くが家族をはじめとする身近なひとたちや幼いころから親しんでいる様々な動物たちです。ほとんどの対象が単数ではなく複数で、その多くが「家族」として描かれています。作品には、家族をはじめとする「絆」というテーマが通底しています。

1981年 埼玉県生まれ 中学の時陸前高田市に移る
2000年 第3回いわさき・きららアートコレクション優秀賞、
第8回岩手県障がい者文化芸術祭 佳作入選
2012年 アール・ブリュット・いわて展(岩手県立美術館)
2016年 第2回 Art to you 東北障がい者芸術公募展入選
その他、奨励賞を多数受賞。

3.11を忘れない

みやぎ生協から
被災地・宮城のいまをお伝えします

人とひとが支えあって孤立を防ぐ

第43回2017年3月5日

「災害公営住宅の自治会活動には、既存の自治会、地域のお世話役、NPOなど“人を支える杖”があることが大事です」。気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンターの皆さんがそう言って例に挙げたのが、南郷三区自治会です。南郷三区自治会設立には、南郷地区に元々あった自治会組織の協力がありました。住民同士のお茶会をきっかけに高齢者のサロンも生まれています。

藤原武寛さん（南郷三区自治会会長）は住宅内を“支える杖”の一人です。

「入居者の6割近くが65歳以上の高齢者。自治会では高齢者の孤立防止と住民同士の交流のため、月1回イベントを開催していますが健康上の理由や気持ちの問題で参加しない方もいます」。

藤原さんは時間を見つけてはそうした住民のもとを訪問するようにしています。「足を向けると2時間でも3時間でも話し続ける。悩みや困り事を誰かに聴いてほしくて、待っているんです」。また各フロアの班長さんたちは、郵便物や新聞が溜まったままの家がないかどうか、気を付けて見るようにしています。

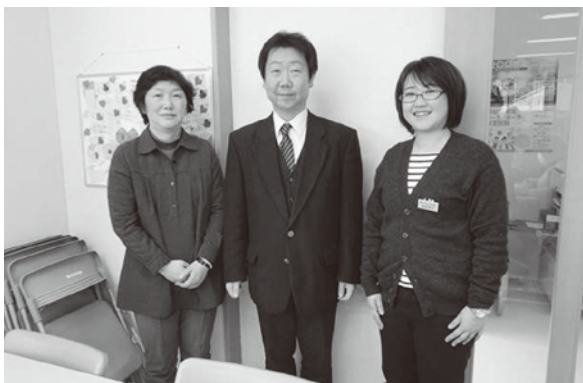
住民同士のつながりは徐々に深まりつつありますが、新たな課題も浮上してきています。

「重いストレスを抱えた方や震災と避難のショックで精神的に参っている方が増えているような気がします」。今年の3月11日で震災発生から6年が経ちますが、実際の復興に心が追いついていない人は、まだ大勢いるのです。「深夜の大声や騒音などのトラブルも発生している。今後は家賃の被災者特例が無くなることで経済的に困窮する世帯も出てくるでしょうから、それも心配です」。

やっと落ち着く場所を手に入れた人たちが、そこで安心して暮らし続けていくためにどんな支えが必要か、これからも考えていかなければなりません。



「自治会の副会長さんや班長さんをはじめ住民の方が助けてくれるのでありがたい」と話す藤原武寛さん



「地域の住民が主体となって動けるようサポートしていきたい」と気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンターの阿部陽子さん(右)、畠山隆弘所長、齋藤貴恵さん



「夏祭りは世代を問わず住民が集える機会として大切にしている」と話します。

特定非営利活動法人なら消費者ねっと

金銭教育ツール完成

奈良県平成28年消費者力向上県民等提案事業
～啓発資料の作成・配布の委託事業～

NPO法人なら消費者ねっとでは子どもの金銭教育として2013年より講座「おかねのひみつと使い方」を開催してきました。また平成28年度奈良県の啓発資料作成・配布の委託事業へ応募し、今までの経験を活かしてオリジナルおこづかい帳、買い物ゲームに使用する食品カード、財布ができるクリアファイルを開発し教材を作成しました。今後完成したツールを使った出前講座を実施していきたいと思っています。

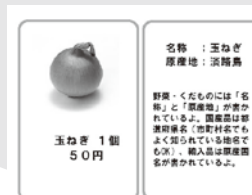


クリアファイルの
おさいふツール

食品表示も学べる▶
お買い物カード



使ったものの金額が一目でわかり
自分でお金の管理ができるおこづかい帳



奨学金問題を考える学習会

「どうなる!? 学費にかかるお金の問題 『奨学金問題について考えよう』」



2017年2月9日(木)、キャンパスプラザ京都で、「どうなる!? 学費にかかるお金の問題『奨学金問題について考えよう』」と題した学習会が開催され、中京大学の大内裕和教授が「若者の格差と貧困—奨学金問題を考える」テーマに講演されました。(主催は京都生協、京都府生協連、大学生協関西西北陸ブロック京滋・奈良エリア、京都労働者福祉協議会)大内教授は、奨学金制度の現状と歴史、上昇し続ける大学学費と経済的困難、高卒就職の困難、大学卒業後の就職難の拡大と奨学金返還の困難、奨学金制度の問題点、奨学金制度改善の方向、奨学金利用者へのアドバイスなどをわかりやすく説明されました。

最後に、「すべての人が学べる社会へ、奨学金制度の改善と授業料の引き下げが重要だ」と話されました。

奈良県生協連では、2015年に「給付型奨学金制度の導入・拡充と教育費負担軽減を求める署名」に協力し、「給付型奨学金の創設等を求めるアピール」に賛同するなどの取り組みを行ってきたこともあり今回の学習会にも参加しました。

◆近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会

2017年3月6日(月)京都のせいきょう会館にて近畿農政局と近畿地区の6生協府県連との意見交換会がありました。近畿農政局からは徳田正一農政局長はじめ11名、生協からは、滋賀、大阪、奈良、兵庫、和歌山、京都、関西地連から計21名が参加しました。



「食の安全・安心をめぐる国際情勢(TPP)」について、消費・安全局食品安全政策課国際基準室調査官辻山弥生氏から報告があり、「米政策について(輸入米の現状を含む)」「加工食品の原料原産地表示制度に関する検討会のとりまとめ状況」「食品トレーサビリティ」について近畿農政局から情報提供がありました。その後、生協からの事例報告として、「コープしがの地産地消の取り組み～規格外の小松菜を利用した漬物の開発と沖島特産の『沖島やさしいアイス』の開発(コープしが)」、「コウノトリを育むお米を使った米粉パンと生物多様性(コープ自然派事業連合)」、「産消提携運動の取り組み～ならコープの産直・『地産地消をすすめる会』他～」(ならコープ)、「京都生協の地産地消の取り組み～生産者、行政や諸団体と連携して～」(京都生協)についての報告を受け、意見交換が行われました。

奈良県医療福祉生活協同組合 創立5周年記念式典・記念企画

日 時：2017年4月15日(土) 13:30～15:30

場 所：橿原文化会館小ホール(近鉄大和八木駅北出口すぐ)

— 内 容 —

記念講演：医療福祉生協の過去・現在・未来～高齢者社会に向けてめざしたいこと～

日本医療福祉生協連 尾関俊紀 副会長

報 告：診療所5年のあゆみ 金幸富 みみなし診療所 所長

組合員による劇：さらなる15年後、こんな医療福祉生協になったらいいネ

問合せ、申込み：奈良県医療福祉生活協同組合 0744-23-1170

奈良県生協連 第5回理事会 1月12日 奈良商工会議所

- (1) 第27回奈良県生協大会開催の報告に関する件
- (2) 2017年度方針骨子の件
- (3) 第28期奈良県生協連通常総会の準備等に関する件
- (4) 2017年度役員選任に関する件
- (5) その他事項の件
 - ①奈良県生協連2016年度会員生協役職員研修会(公開企画)について
 - ②ヒバクシャ国際署名の取り組みについて
 - ③「関西災害物資供給協議会」(関西広域連合)への参画について
 - ④2017年度主要日程案について

奈良県生協連 第6回理事会 3月9日 奈良商工会議所

- (1) 第28期奈良県生協連通常総会の準備等に関する件(2次)
- (2) その他事項の件
 - ①日本生協連第67回総会代議員推薦について
 - ②「アースデー2017inなら」共催と参加について
 - ③陸前高田を描く「田崎飛鳥絵画展」～東日本大震災から6年 私たちは忘れない!～の共催について
 - ④ヒバクシャ国際署名活動支援のための賛同金拠出について
 - ⑤2017年度主要日程について

【公告】奈良県生協連第28期通常総会開催について

当会定款第49条にもとづき、奈良県生活協同組連合会第28期通常総会を下記の通り、開催致します。

記

1. 日時：2017年6月24日(土) 10:00～12:30

2. 会場：奈良ロイヤルホテル 奈良市法華寺町 254-1 TEL: 0742-34-1131

3. 議案

第1号議案 2016年度事業報告・決算関係書類承認の件

第2号議案 2017年度事業計画及び予算案決定の件

第3号議案 役員選任の件

第4号議案 役員報酬決定の件

4. 代議員の選出について

会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、各会員の定数は3人とします。

1月

- 4日 新年県庁訪問
- 10日～11日 日本生協連全国方針検討集会
- 12日 関西災害時物資供給協議会設立総会
- 12日 奈良県生協連第5回理事会
- 25日 平成28年度消費生活協同組合指導検査(奈良県生協連)
- 26日 平成28年度奈良県消費生活審議会
- 28日 講演会「地域に住み続けるために必要なこと～エネルギー永続地帯研究から～」
- 30日 食の安全に関するリスクコミュニケーション(厚生労働省)

2月

- 7日 奈良県環境審議会
- 7日 再エネ協働ネットワーク連絡会(主催:一般社団法人地域未来エネルギー奈良)
- 13日 「平成29年度 奈良県食品衛生監視指導計画(案)」に対する意見書提出
- 18日 「出会いウィーク2017 NPO ボランティアフェスタ」(奈良NPOセンター主催)
- 20日 地方消費者フォーラム in ひょうご
- 27日 第10回吉野共生プロジェクト推進委員会
- 28日 日本生協連2017ピースアクションキックオフ集会

3月

- 3日 関西地連大規模災害協議会
- 3日 関西地連「地域とつながるフォーラム」
- 3日～4日 自然エネルギー学校(地域未来エネルギー奈良主催)
- 6日 近畿農政局と生協府県連意見交換会
- 7日 近畿府県連協議会
- 8日 遺伝子組み換え食品学習会
- 9日 奈良県生協連第6回理事会
- 29日 奈良県生協連役員研修会

アースデー2017 in なら

1990年から環境問題を考え、行動する日として定着してきたアースデー。
26回目を迎える今年も飛鳥石舞台周辺で開催します。

- 開催日時: 2017年4月23日(日) 10時～15時
- 開催場所: 国営飛鳥歴史公園 石舞台地区
- 内 容: 「吉野共生プロジェクト」「菜の花エコプロジェクト」、パネル展示、模擬店、環境関連団体など出展、吉野特産物コーナー、体験コーナー、資源循環型コーナー、フリーマーケット(主催ならコープ 共催奈良県生協連)

編集後記

明治生まれの祖母が寝たきりになったのはたしか今の私の年齢の3年後。その時代、その年では珍しくはなかったと思います。長寿の時代、自分はまだまだと錯覚してられるものの、先はわからず、せいぜい毎日を大事に、精進しようと思っています。

(由)

2016年度も、子ども食堂に取り組む方々や陸前高田市の田崎さんはじめ多くの「出会い」がありました。2017年度も多くの方々との「出会い」「語り合い」を大切にしたいと思っています。

(和)

夫が自治会長1年の任期を無事終了しました。地域は少子高齢化が進み、スーパが撤退して3年。地域の課題は山積み。自治会の役割をイベント消費型から地域見守り型に変えていかねばなりません。

(順)

小さいころから何かと手を焼かせた下の娘が今年卒業と就職をします。成人し大人になっても手を出していた私。これから社会人となった娘を見守ることにしたいのですが出来るかどうか: 早く子離れできますように

(佳)